

# 軍事機密

昭和十七年八月二十三日

南方軍ニ十二號作戰實施意見ニ關シ參本  
第二課長ヨリ南方軍林參謀ニ對スル回答要旨

命ニ依リ二十一號作戰ニ關スル大本營ノ意圖ヲ

説明ス

一本作戰ノ價值ト其必要性ニ關シテハ大本營

トシテモ總軍ト認識ヲ同シクシ成ルヘク速ニ

之カ實現ヲ期シ度所存ナルモ大本營ノ全般

0. 756

1855

作戰指導ノ關係ト本作戦計畫自体更ニ檢  
討ノ餘地アルヲ以テ取敢ヘス大陸指ヲ以テ  
作戰準備ヲ指示シ所要ノ作戰準備ヲ進メ  
シメラレ實行ハ別ニ大命ヲ仰クコトトセラレ  
タリ

指示ニ別紙ノ如シ

ニ本作戦ニ關シ先ツ顧慮セサルヘカラサルモノ

三點アリ

第一ハ作戰計畫自体ノ問題ニシテ作戰終末

態勢ト印度民衆ノ動向ニ關スルモノナリ

當面ノ敵ヲ(差當リノ増援兵力ヲ含ム)撃破シテ

所望ノ線ニ進出センコトハ敢テ問題ナシトス

ルモ爾後英、印、米等聯合軍トノ間ニ第二戰

線ヲ展開シテ消耗戰ヲ惹起スルノ公算アリ

又印度民衆ハ元來反「ナチ」反「ファシズム」  
ニシテ民主的傾向強ク日本ヲ侵略國視アリ  
リ從ツテ我印度進攻ハ現下ノ反英騷擾ヲ  
急速ニ英印妥協ニ趨ラシメ日本軍トノ間  
ニ民族戰的事態ヲ醸成スルノ危険モ亦ナ

シトセス

以上ハ或ハ杞憂ニ過キサルヘシト考ヘラルル

1858

00 759

モ最悪ノ事態ニ就キ検討シ此問題解決ノ  
確算ナクシテ作戰ヲ開始スルハ一大冒險ト  
謂ハサルヘカラス 況ンヤ兵要地理特ニ地形等  
ノ偵察検討ハ未タ十分ト謂ヒ難ク今後ノ準  
備ニ俟ツヘキモノ多キニ於テ然リトス

第二ハ獨蘇戰及北阿方面作戰推移ノ判斷  
ニシテ該方面ノ作戰ハ必スシモ希望ノ如ク

進展セス状況ニ依リテハ印度ニ現存スル敵  
兵力ノミナラス更ニ他方面ヨリスル増援兵力  
ヲモ我軍一手ニ引受クルコトアルヲ覺悟セ  
サルヘカラス即チ苟モ本作戦ヲ敢行セント  
スル以上第一第二ノ場合ニ處スル覺悟ト準  
備トヲ必要トスルモノト考ヘアル次第ナリ  
第三八五十一號作戦トノ關係ナリ

761

1860

大本營ハ既ニ五十一號作戰ノ準備ヲ決意  
シ十月頃ノ情勢ヲ勘案シテ之カ實行ヲ決  
定セララルル事トナリアリ 若シ本作戰ヲ實  
行スルコトトナラハ南方ニ對シ兵力、船腹等  
増加ノ餘裕全然之無キヲ以テ假初ニモ印  
度作戰ノ爲五十一號作戰ヲ拘束、掣肘スルカ  
如キ事態ノ發生ハ嚴ニ戒メサルヘカラサル

762

1861

所トス

之本作戰ノ實施ニ關シ特ニ慎重ヲ期セラレアル所以ナリ

尚五十一號作戰ニ就テハ極力企圖ノ秘匿ニ勉メアルヲ以テ貴軍作戰關係責任者以外絕對漏洩スルコトナキ如ク注意セラレ度

三、作戰實施ノ決定ハ五十一號作戰ノミナラス

1862

00 263

獨伊方面作戰ノ見透シモ附キ且作戰準  
備進捗狀況ヲモ更ニ的確ニ把握シ得ル  
十月初メ頃示シ得ルモノト考ヘアリ

當時ノ情勢如何ニ依リテハ指示ニ示サレ  
アルモノヨリ更ニ積極的目的ト規模トヲ以テ作  
戦ヲ實施セシメラルルコトモアルヘク更ニ延  
期等ノ場合モ考ヘラルルヲ以テ其心構ヘニ

764

1863

テ準備ヲ進メラレ度

四 尚本作戦ニ關聯シ岩畔機關ノ推進強化

特ニ印度國家軍ノ積極的利用ニ就キ研究  
セラレ度

又積極的ニ我ノ戦争目的ヲ闡明スルノミナ  
ラス消極的ニハ侵略者ノ烙印ヲ捺サシメ  
サルト民族戦轉化ヲ回避スル等ノ爲宣

765

1864

傳戰ノ價值ハ特ニ重要ト存セラルルニ付  
之カ計畫準備ニ遺漏ナキヲ期セラレ度

五 船腹ハ既配當ノ四〇萬噸以上ニハ絶對ニ

増加シ得サル實情ニ在ルヲ承知セラレ度

六 「ベンガル」灣ノ制壓其他海軍ノ協同ニ關シテ

ハ多クヲ期待シ得サル事情ニ在ルモ本件ニ

就テハ大本營ニ於テ連絡スルコトトスヘシ

貴軍ニ於テモ直接現地海軍側ニ折衝セラレ度

七 本作戦實施ニ伴ヒ「パレンバン」ノ防衛等ヲ

弱化セシメサル如ク留意セラレ度

又怒江ノ線ハ對重慶壓迫ノ爲依然確保

セシメラレ度

八 二十一號作戦ノ爲ニハ固ヨリ十一號作戦ヲ併

200 767

1866

行實施スル場合ニ於テモ兵力ノ増加ハ期  
待シ得サル點ハ篤ト諒承相成度

九十一號作戰ハ依然「外郭要地ニ對スル作

戰準備要綱」ニ準據シ且二十一號作戰實

施後ノ事態ヲ設想シ引續キ研究セラ

レ度先般連絡セル作戰要領案提出ハ

十二月末頃ニ延期ス